

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901308		
法人名	有限会社旭川ケアサービス夢		
事業所名	グループホーム夢		
所在地	旭川市春光台4条9丁目 4-3		
自己評価作成日	平成23年10月	評価結果市町村受理日	平成23年12月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system:kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0172901308&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺に介護施設が点在する福祉村に位置し、閑静で自然豊かな場所に広い敷地を有効活用している。ゆったりとした時間が流れる様な空間を提供していける様心がけている。共有スペースは吹き抜けの構造とし、陽光が自然と差し込む開放感のある場所となっており、明るい環境の中で生活出来る様になっている。夏季には家庭菜園も入居者様と一緒にいき、収穫した作物をその日の食事やおやつに使用したりし、二重の楽しさを味わって頂けるようにしています。

旭川市郊外の、緑豊かな福祉村に建つ事業所で、ワンフロアーに2つのユニットが並列している。リビングは広く、天窓からは明るい自然光が入り、冷暖房を完備している。各居室にはトイレや洗面台が設置されており、プライバシーも確保されている。浴室は2ヶ所あり、温泉風の大浴場には、大きな窓があり裏庭の木々を眺めながら入浴でき、入浴日以外や一人での入浴を好む利用者には、個浴室が用意されている。広い敷地内には菜園や花壇があり、日々の手入れや収穫は、利用者の楽しみになっている。管理者と職員は個々の生活歴を大切に、単調になりがちな事業所での生活が活性化するよう、身体機能に合わせ体操やゲーム等のレクリエーションを日課とし、事所内でも楽しく過ごせるよう工夫しており、さらに日常的に外気にふれることができる様に、散歩・外出・ドライブ・買い物等の支援をしている。また定期的に開催している運営推進会議では、利用者の状況・日常活動報告と予定・防災計画等話し合い、業務の充実を図っており、利用者家族の参加も多い。高齢者が健やかに生活できるよう支援している、温もりある事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係構築・その人らしさを大切にしたい理念を作っている。理念は事業所内に掲示すると共に、管理者・職員一同が、その理念を実践するよう、折に触れ、理念の再確認を行っている。	運営母体法人の運営理念・事業所理念・運営方針は、各ユニットの目立つ所に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し近隣施設のお祭りへの参加。系列法人のデイサービスのレクリエーションなどにも参加し交流をしている。	町内会に加入している。近隣福祉施設の北療祭や、地域の行事に参加している。地域住民による、マジックや民謡等のボランティア訪問もある。	近くには民家が少ないので、災害対策や運営推進会議で広く意見を伺う為にも、近隣の福祉施設やグループホームとの相互交流を期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症への理解や浸透を図り、支援の状況等を報告させて頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域包括支援センターの方を招き、事業所での行事や防火に向けた取り組み、入退去状況など報告・意見交換している。ご意見頂いた内容については、前向きに検討し、サービスの質の向上を図っている。	定期開催をしている運営推進会議は、利用者・家族代表・町内会長・地域包括支援センター職員等が参加し、利用者状況・行事予定と報告・災害対策等を協議し、事業所の運営に効果を上げている。	運営推進会議後は、利用者家族や会議出席者に議事録を送付することを期待する。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、日頃から、不明点の相談や、連絡・報告を密にしている。ファックスや郵送でなく、市へ出向く様、心がけ顔を合わせる形での連携を多く図っている。	市介護高齢課とはケアサービスの疑問や質問等を相談し、サービスの質の向上に取り組んでおり、意見交換を行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの整備をし、不定期ではあるが、勉強会を行い、職員の身体拘束への正しい理解を促している。拘束しないケアを事業所として心がけている。	身体拘束や虐待については研修会で勉強し、全職員が正しく理解している。マニュアルは完備し、拘束のない自由な生活をしている。夜間以外、玄関は施錠せず、見守り支援をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為の有無については、管理者が中心となり、日頃確認している。管理者が複数職員との面談を行い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主として管理者が、外部から最新の制度状況を学び、職員への伝達学習につなげている。その上で、制度の活用・支援を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関し、理解しやすい表現で説明することを心がけている。不安や疑問は、十分な傾聴の上、納得して頂けるよう説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、意見や要望を表出しやすい関係作りをしている。御家族へは、面会時や電話にて近況を、お知らせし、意見や要望を聴く機会を作っている。	玄関には意見箱を設置し、家族が意見や要望等を出しやすい工夫をしている。また来所時の会話の中から希望や要望を聞き、家族の思いを運営に反映するようにしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や申し送り時には、意見や提案を、積極的に聴くよう努めている。大きなリスクを伴わない内容に関しては、その意見や提案を反映できるよう努力している。	充実したケアサービスを提供するために、運営者・管理者・職員参加の全体会議やユニット会議が定期的に行われており、職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい・向上心を持って働けるよう配慮している。また、適度な範囲で、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・各職員の力量を把握し、個人面談・個人指導を行っている。研修の受講や、他の職員への伝達も重要なため、研修後は、資料の複写やレポート提出を義務づけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人事業所との交流機会を持ち、情報交換・個人のスキルアップを図っている。不定期であるが、管理者は、他法人事業所との相互訪問も行って、質の向上に向けた取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一同が、入居者様を理解する努力をし、不安・要望を伺える環境を提供。ご本人の訴えを傾聴し、安心できるような支援を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、直接的または間接的(仲介者がいるなど)に、ご相談を伺うなどし、不安や要望を伝えやすい関係構築に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・御家族の訴えは当然のこととし、何気ないような、ご本人・御家族の言葉も、きちんと聴きとどめ、必要な支援を見極める。インフォーマルなサービスも含め紹介・利用にあたっての支援をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の希望・要望・経過を知り、共同生活における関係構築に努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、近況を知らせている。また、職員が支援すると共に、御家族への協力を依頼する場面もある。職員一同、御家族とご本人の関係を大切にしよう心がけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報保護法を遵守するため、事前に御家族への確認はしている。これまでの生活で得た大切な関係が継続できるよう外出時・面会時には、ゆったりと交流できるよう配慮している。	馴染みの人や場所との関係が継続できる様に支援しており、家族同伴で墓参りや法事に行っている。面会時は寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月のお誕生会などの行事では、ユニット合同で行いコミュニケーションを図っている。毎日、レクリエーションを行い希望者が参加され、利用者同士の関わりを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要な場合は、迅速にフォローしている。退去後も関係は継続していると、職員一同が周知している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、日頃のコミュニケーションの中で、希望や意向をくみ取るよう努めている。	日常の会話・表情・行動等から個々の意向や希望の把握に努め、困難な場合は家族に相談し、本人本位の生活ができるように支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人・御家族より、生活歴や、これまでの生活スタイル、趣味などを伺っている。また、ご本人や御家族の了承のもと、入居前のサービス提供者から情報提供していただくこともある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要に応じ、スタッフカンファレンスを行い、管理者はじめ職員一同、心身状態の把握ができるよう努力している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・御家族の意向を取り入れ、計画作成担当者は、日頃より職員との情報共有に努めている。介護計画・モニタリングともに、計画作成担当者職員が、その内容に目を通す様にしている。	利用者・家族・看護師等の関係者と話し合い、十分に検討し、各人に適した利用者本位の介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録は、些細なことでも記録に残すことと、徹底している。介護計画の見直しに活かすことは、もちろん、その実践にも活かされている。記録内容を共有しやすくしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ニーズに対し、柔軟な対応を取るよう努めている。困難な場合には、ニーズに近い状況を提供できるよう支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターとの連携をとり、地域資源の把握につとめている。また、地域資源も活用することで、入居者様へ安全で快適な生活を提供している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関を受診先としている。通院には必ず職員が同行し、体調不良時には、電話連絡で医師の指示を仰ぐなどしている。	利用者の希望するかかりつけ医を受診し、職員が付き添いや送迎をしている。その他、病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の他、関連法人所属の看護師との連携を図っている。看護師からの助言や指示のもと、支援している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の心身状態に変化があった際には、速やかに医療機関へ連絡するよう努めている。医療ソーシャルワーカーをはじめとした、病院関係者との関係構築も積極的に図っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、ご本人・御家族と連絡や話し合いを密に取るよう心がけている。医療機関や関係者とは、都度、連携し、事業所として、出来る限りの支援を行っている。	医療連携体制の下、『重度化した場合における対応に係る指針』を作成している。入居時から本人・家族等と話し合いチームとして支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に備え、対応をマニュアル化している。定期的に振り返りし、実践に活かせるよう努力している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、職員への周知を徹底させている。系列施設へも協力を依頼している。	年2回の避難訓練を実施し、職員全員が訓練に参加し非常時に備えている。自衛消防組織図や職員の連絡体制も確認されている。	万が一の災害を想定し、飲料水や非常持ち出し袋等備品の準備や、近隣施設や地域住民の防災訓練参加を期待する。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別性を重んじ、プライバシーはもちろん、個々の自尊心を傷つけない対応心がけている。	自尊心を傷つける事がないように注意し、プライバシーに関わる事は周囲に配慮しながら行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が、ご自身の思いや希望を表出しやすい様、配慮している。ゆったりとした時間の提供に努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、家事のお手伝い等は無理には促さず、その都度希望を伺いながら行っていただいている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、服装など一人、一人の希望を伺う様に心がけ、特に外出時や行事の際にはおしゃれを楽しめる様支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人、一人の摂取状況を観察しながら、その人に合った形態の食事を提供する様心がけている。食事としては出ないようなものを行事で提供している。	利用者の意見や嗜好を取り入れた、献立を作成している。畑で収穫した野菜も食卓に上がり、利用者の楽しみとなっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分チェック表を記入し、必要な利用者の方については、主治医と相談しながら、摂取量の確保を図っている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の口腔状態や能力に応じ、口腔ケアを実施している。必要に応じて歯科受診や往診を受けている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄リズムが把握できるよう努めている。ご本人の状態に応じ、声かけやトイレ誘導を行っている。	排泄チェックを行ないながら、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援を行っている。各居室にはトイレが完備され、プライバシーも保たれている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物・個々に合わせた適度な運動を促している。個々の病歴や現病歴・服用中の内服などを考慮し、個々に予防方法を考え、実践につなげている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月曜日・木曜日を入浴日としているが、ご本人の希望には配慮している。清潔で安全・かつ、ゆったり入浴できるよう援助している。	大浴場での入浴の他、希望で個室も利用できる。入浴拒否傾向の利用者には、時間や気分を変えたり声かけに工夫をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や気持ちに配慮し、日中・夜間ともに、安心して休息・入眠できるよう支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、主として、看護師が中心に行っている。用法・用量・作用・副作用については、主治医や近隣の薬局(薬剤師)とも連携し、理解・周知に努めている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゲーム、散歩、畑作業など希望される方は参加していただき、気分転換できるよう職員一同支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園への散歩・買い物・行事を通し、外出の機会を持てるよう支援している。必要な場合には、御家族にも協力頂いている。	日常的に散歩や外気浴で戸外に出ている。自然に屋外へ出掛けられるように、外出計画が年間行事の中に多数盛り込まれている。広い敷地には菜園があり、世話や収穫で庭に出るのも利用者の楽しみとなっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理能力のある方に対しては、少額でも所持して頂いている。また、欲しいもの・必要なものがある場合には、本人、家族と相談の上購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には自由である。御家族の事情で、制限を望まれる場合を除き、電話や手紙を活用した通信は自由としている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには日常の様子を撮った写真を貼ったり、季節に応じた飾りつけ(季節の花を飾る)をする様に心がけている。温度や湿度にも配慮し、毎日2回、チェックしている。出来る限り、不快感少なく過ごして頂けるよう、清潔な環境を保つ様に努力している。	リビングは屋根までの吹き抜け構造で、高所の天窗からはやわらかな自然光が差し込み、冷暖房完備である。広いリビングは、歩行訓練や運動にも効果を上げている。温度・湿度に気を配り、清潔で快適な居住空間を作っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席など一人、一人の希望を取り入れ、仲の良い方と隣に座って頂けるよう配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたもの・馴染みのあるものを居室に持ち込んで頂いたり、御家族との写真を飾るようにしている。	各居室には洗面台・トイレ・収納が完備している。自宅で使い慣れた私物や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ、安心して寛いで過ごせるように配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢者の方が、安全に生活できる様、施設内はバリアフリー構造とし、手すりやスロープも必要箇所に設置している。		